

第118回総会中止のお知らせ

本年度も昨年度に引き続き、コロナ禍のため皆さまの健康と安全を最優先として大変残念ではありますが、総会の開催を中止することといたしました。

米寿を迎えられた皆様には残念なお知らせとなり誠に恐縮に存じますが、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束後は、例年通り同窓会活動を行っていく所存ですので、今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

※例年コーラスを披露してくださった「アミューズ・華」の皆様が、残念ながら令和3年4月をもって解散されました。いままで美しい歌声をありがとうございました。

ご長寿おめでとうございます

◎白寿・百歳(35回卒生)

龍池 恭子様 渋谷千枝子様 尾入智恵子様
今村かつ江様

同窓会よりマイクロバス寄贈

本校では現在マイクロバスを4台所有しており、内、2台はスクールバスとして、残り2台は部活動用のバスとして使用しております。今年度は焼津方面からの入学者が大幅に増加したため、スクールバスを2台から、急遽、部活動用バス1台を利用し3台体制で運行している状況です。そのため生徒の通学用と部活動兼用のバスをもう1台増やすことはできないかという要望が聞かれるようになりました。しかし、この4月に2台とも中古でバスを買い換えたところで、さらにもう1台購入することは大変難しく、甚だ勝手なお願いではございますが、同窓会でマイクロバスを寄贈していただけないか。と学校長より依頼を受けましたので、同窓会よりマイクロバス1台を寄贈いたしました。

卒業生の皆様の目にも触れることができればと、バスに「静岡精華・大成同窓会寄贈」と入れてくださいました。また、精華学園より感謝状をいただきました。



事務局より

住所・氏名変更について

転居や住居表示変更、結婚等で住所や氏名などの変更が生じた場合には早めに同窓会事務局までお知らせください。尚、連絡の際には、卒業年度・卒業回数・在籍時の氏名(旧姓)・変更前の住所氏名などもお忘れなく!

〈連絡先〉 静岡市葵区鷹匠二丁目4-18
静岡大成中学校・高等学校内
静岡精華・大成同窓会
☎054(254)7334

●同窓会事務補助費決算報告

令和2年4月～令和3年3月

＜収入の部＞

前年度繰越金	1,678,740 円
振込総額	595,326 円
①	2,274,066 円

＜支出の部＞

会報発送基本料金	5,500 円
宛名シール処理印刷費	80,665 円
封入封緘作業費	174,775 円
宛名シール貼付、仕分作業費	40,332 円
郵送料	919,976 円
振込手数料	880 円

合 計 ② 1,222,128 円

＜次年度繰越金＞①－② 1,051,938 円

同窓会だより印刷代 400,675 円

上記振込手数料 550 円

※本会計より 401,225 円

※令和2年度は全会員に送付したので、印刷代は同窓会本会計より負担いたしました。

事務補助費振込みのお願い

「同窓会だより43号」お楽しみいただけたでしょうか。
この同窓会だよりは、事務補助費で運営されており、平成28年度発行分からは希望者と事務補助費寄付者のみに郵送しております。これからも母校の様子・同窓会活動をお知らせするため「同窓会だより」の発行を続けていきたいと思っておりますので、1口1,000円の寄付に引き続きご協力いただきたくお願い申し上げます。
なお、母校ホームページの同窓会コーナーに「同窓会だより」を掲載しております。



時代に即応する人材
凛々しきこと 優しきこと

精華

会長挨拶

高23回卒 仁田 桂子(杉原)



この度、色々な事がありまして、三月末から理事長に就任しました。静岡新聞をご覧になった同窓生もおられるかと思います。顔写真は同じなのに杉原桂子になっていました。理事長の時は杉原姓に、同窓会長の時は仁田姓でやろうと思ってます。同窓会長就任の時の「浅学非才の私でいいのか?」との思いは今も変わりません。

六年間学んだ精華がとても気になる事と父杉原正六の生き様に好感を持った事、創始者杉原正市が先見の明があった人物だった事、杉原市蔵が戦時中もリベラルな考え方の持ち主だった事、等は私が精華を思う時、ぶれない事です。

さて、コロナ禍の中、皆さまはどの様にお過ごしでしょうか?健康を害してはいませんか?介護施設に入った伴侶や親御さん、遠くにいるかわいい孫に会えなかったりしていませんか?仕事が無くなって困ってはいませんか?学校に通えていますか?

熱海市で起きた土石流災害をはじめ、豪雨災害が各地で繰り返されてしまいました。「異常気象」が「日常化」しているのは事実です。

世界のあちこちでは戦争や弾圧が起こって、人が人として扱われてない映像を見るたび心が痛みます。

そんな中で最近ラジオのニュースで耳にしたのですが、一昨年パキスタンとアフガニスタンの国境で銃撃されて亡くなった中村哲氏の率いるベシャワール会は国、人種にかかわらず医療活動を続けているとのことでした。救われた思いでした。

無力感の多い夏でした。が、母校の野球部は三回戦まで進めましたし、放送部、美術部は全国大会で優秀な成績を残しています。他の部活や暑い中の補習に頑張っている在校生も見ました。

そう言えば私のご近所の卒業生はボランティアに頑張っておられました。私も無力感なんて言っていられません。「凛々しきこと 優しきこと」に立ち返り前向きにやっていきたいと思います。来年こそは総会でお目にかかれますように。

(8月末記)

校長挨拶

静岡大成中学校・高等学校 校長 山田 隆司



同窓生の皆様、日頃本校の教育にご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。今年もまた、新型コロナウイルスとの戦いで皆さんとお会いできなく大変残念です。このままだと、私は皆さんと一度も顔を合わせることなく、「コロナ校長」として皆さんの記憶に残ることになりそうです。

この夏は、コロナだけでなく、異常気象による長雨で痛ましい事故が日本のあちこちで起こりました。世界でも、洪水や猛暑による火事など、これまでにない甚大な災害が発生しています。人類はコロナウイルスや自然災害と戦っていますが、視点を変えるとまた違ったことが言えるかもしれません。アメリカを代表するシンガーソングライター、ジャクソン・ブラウンは、「人間は、ものすごいスピードで世界中のあらゆるところに広がって、地球を壊し、生き物を絶滅させた。もしかすると、人間こそ一種のウイルスなのではないか。」と語りました。地球は、人間というウイルスと闘っているのでしょうか。

さて、同窓会長仁田桂子様に宛てた、同窓生の勝又千代子さんのお手紙を、1学期の朝礼で中高生に紹介しました。精華高等女学校では太平洋戦争中、密かに英語を学んだり敵国の歌を教わったり、リベラルな雰囲気だったこと、学校が軍需工場となり風船爆弾を作ったこと、静岡大空襲で学校が灰と化したことなど、戦時中の精華のことを知ってほしいという勝又さんのお気持ちを生徒に伝えました。生徒も真剣に聞いており、勝又さんのお気持ちは確実に伝わったと思っています。

この戦争が激しさを増していた1944年(昭和19年)、学園長を務められた杉原正六先生は、史上最悪の作戦と言われた「インパール作戦」に従軍していました。生存率わずか12%とも言われる戦争から、1947年4月に奇跡の生還を果たし、6月には本校に教諭として赴任されました。その後亡くなるまでの60年間、本校歴史の約半分をこの学園に携わって来られたのです。

このような本校のドラマチックとも言える歴史を振り返ると、これからも、生徒、教職員、同窓生が力を合わせ、この精華学園を厳しい時代を生き抜いていく学校にしなければならないと私は思っています。同窓生の皆様、今後もコロナ感染には十分ご注意ください。歴史ある本校卒業生としての誇りを胸に、健康第一でお過ごしください。

『静岡精華学園報』の発刊について

学校法人静岡精華学園
法人本部事務局長 太田 晴康



この度、静岡精華学園報(以下、学園報)を発刊しました。その目的は3つあります。

まず1つ目は、学校法人静岡精華学園グループの一体感につながるような役割を果たすことです。系列校である静岡精華幼稚園、静岡大成中学校、静岡大成高等学校、静岡福祉大学はいずれも118年前の明治36(1903)年に誕生した私立静岡精華女学校を母体とします。「時代に即応する新しい人材の育成」という建学の精神は現在も変わることがありません。しかし、幼稚園から大学まで、各組織に共通する固有の名称がなく、系列校であることが内外に対して見えにくいという声も聞きます。そこで、創刊号では創立者である杉原正市先生の足跡に触れるとともに、グループ全体の進むべき道をまとめた新中期計画「静岡精華学園みらい躍進計画(令和3年度～令和7年度)」を取り上げました。また各組織についても特色ある授業等を関係者の皆様に知っていただく内容としました。目的の2つ目は、財務状況を含む経営内容の透明化です。学園報を通じて、財務の現状、それに伴う経営健全化への道を内外に示すことが教育機関としての社会的責任であると考えています。そして3つ目に、組織内の風通しをよくすることを目的としました。令和3年度には杉原桂子理事長、山城厚生常務理事という新体制が発足しましたが、発足直後に理事長、常務理事と現場の職員との意見交換会を実施したことも開かれた組織を目指す試みの一つです。学園報もこうした双方向のコミュニケーションを実現する一助になることができればと考えています。

現在、秋季号の発刊作業を進めていますが、今後も年2回のペースで関係者の皆様のお手元に学園報をお届けします。ぜひ皆様の率直な感想を頂戴できれば幸いです。



《野球部》 高校

今年度は静岡大成高校硬式野球部が新たな扉を開いた一年となりました。新チームとなり迎えた秋季大会では、県大会出場を懸けた二回戦で焼津中央高校に敗れ、あと一步のところまで県大会出場を逃しました。この秋の敗戦を心に刻み、練習に励み、迎えた春季大会では、県大会出場を懸けた二回戦で再び焼津中央高校と対戦し、リベンジを果たし創部初の県大会出場を決めることができました。夏の大会では、三回戦で敗れてしまいましたが、創部初の夏二勝を達成することができました。夏の大会では応援委員や吹奏楽部をはじめとする学校の応援が本当に力になりました。これからは後輩たちが私たちの記録を塗り替えてくれることを願っています。

(3年 岡本将大)



今回は全国大会や県大会で活躍した部活動にスポットを充ててみました。

《放送部》 高校

放送部ではこの夏、二つの大会に参加しました。一つはNHK杯全国高校放送コンテストで、南海トラフ巨大地震に関わる津波防災に関する番組を出品し、第4位に相当する優良賞を頂きました。もう一つは、全国高等学校総合文化祭放送部門で、こちらは富士川河口で活動するグライダーチーム取材した番組を出品し、優秀賞を頂きました。コロナ禍で取材活動が思うように進まなかったこともあり、大変嬉しい受賞となりました。

(3年 大村祥真 尾崎萌音)



《美術部》 高校

今年は「全国高等学校総合文化祭(過去5回出場)」 「全国高校生国際美術展(過去7回出場)」 「全国創作コンペティション(過去2回出場)」 「全国サムホール展(多数入選入賞)」、その他の県市中部大会で多数入賞入選しました。

ボランティア活動は美術部恒例(15年目)の活動で今年も新聞にも掲載していただきました。近隣の商店街など(病院・介護施設・保育園)に季節を感じさせる風鈴(絵付)やミニツリー(松ぼっくり)を今年もプレゼントすることができました。

(2年 栗山愛桜)



《バドミントン部》 高校



私たちバドミントン部は8月に行われた選手権大会の中部地区予選で上位通過を果たし、県大会で男子ダブルスでは第3位、女子ダブルス、女子シングルスはともにベスト8に入ることができました。コロナ禍である今の状況を乗り越え、9月末に控える新人戦では個人戦だけでなく、団体戦も目標である東海大会に出場できるように、一人ひとりの技術向上に向けてチーム一丸となり日々練習に励んでいます。

(2年 滝井 凜)

《女子バスケット部》 中学校

私たち中学女子バスケットボール部は、この夏まで3年生10人、2年生8人、1年生8人で活動していました。県大会に出るのは3年ぶりで、初めてだったのでみんな緊張していました。ベンチも声を出して応援することができなくて、なかなか盛り上げることができなかったけど、チーム全体で目標を明確にして最後まであきらめず、大成らしいバスケットをすることができました。チーム全体で協力してバスケットをすることの楽しさを知ることができたのでとても良かったです。

(3年 山下美優)



《男子バスケットボール部》 高校

私たち高校男子バスケットボール部は、中部ベスト4、県ベスト8を目標に活動してきました。目標を達成するために、日々の練習ではチームの課題であるコミュニケーションをとるために声を出すことを主に意識し、1対1、チームディフェンスの強化を集中的に取り組んできました。その結果、新人大会では2年連続で県大会出場をすることができ、高校総体では十数年ぶりとなる県大会出場を果たすことができました。

(3年 ブラウン龍輝)



《男子バスケットボール部》 中学校

中学男子バスケットボール部では、日頃の練習で走るメニューやディフェンスメニューを主に3年間全力でやってきました。僕たちには最大のライバルがいました。そのチームが今年強いだろうと期待されていましたが、実際に試合をしてみると、たいして大きな差はないと感じました。その後も何回も中部大会や市大会の決勝で対戦してきました。勝ったり負けたりと五分五分でした。中体連では、その最大のライバルに勝利することができ、とても嬉しかったです。

(3年 菊池優聡)



《男子バレーボール部》 高校



男子バレーボール部は3年9名、2年10名、1年11名の計30名で活動しています。日々の練習は、筋力トレーニングや、基礎基本の反復練習、監督やコーチ指導の下、私達に足りないところを補うための練習を行っています。

今年のインターハイ県予選では、怪我などで万全ではなく、1回戦で敗退してしまいました。この悔しさをバネに春高予選では、県ベスト4を目指して頑張っています。

(2年 滝浪光貴)



令和4(2022)年度
静岡大成中学校・高等学校 入試要項

● 静岡大成中学校

- 募集定員 80名(男・女)
◎1次検査(単願)
出願期間 令和3年12月9日(木)～24日(金)
検査日 令和4年1月8日(土)
検査内容 ・学力検査(国語・算数)
・面接検査(保護者同伴)
合格発表 令和4年1月13日(木)正午
◎2次検査(併願)
出願期間 令和4年1月14日(金)～27日(木)
検査日 令和4年1月29日(土)
検査内容 ・学力検査(国語・算数)
・面接検査(保護者同伴)
合格発表 令和4年2月2日(水) 正午

● 静岡大成高等学校

- 募集定員 200名(男・女)
(選抜…単願・併願)
出願期間 令和4年1月25日(火)～1月26日(水)
試験日 令和4年2月1日(火)・2月2日(水)
試験内容 ・学力試験
単願…国語・数学・英語
併願…国語・数学・英語・社会・理科
・面接試験
合格発表 令和4年2月10日(木)正午

● 問い合わせ先 〒420-0839 静岡市葵区鷹匠二丁目4-18
静岡大成中学校・高等学校 ☎054(254)7334

学校説明会

● 中学

- 入試説明会
・10月16日(土) 前半14:00～15:00 後半15:30～16:30
・11月 6日(土) 前半14:00～15:00 後半15:30～16:30
○スターライトクラス体験会
・令和4年2月18日(金) 18:00～19:30
(要予約・小学4、5年生と保護者対象)

● 高校

- 学校説明会
・10月16日(土) 14:00～16:00
○公開授業
・11月20日(土) 9:00～11:15
○入試説明会
・12月 4日(土) 14:00～16:00
・12月11日(土) 10:00～12:00

学園情報

静岡精華幼稚園

ブランド化を果たした精華幼稚園

静岡精華幼稚園 園長 幾田光男

精華のブランド化——これまで何回か口にしてきた私ですが、果たしてブランドって何?いざ問われてみると、分かっているようでよく分からない。これが実態でした。

改めて調べてみました。「生活者が商品やサービスの『意味ある差』に共感し、ファンになっている状態」とありました。瞬間、「正に今の精華幼稚園だ!」脳天に一撃を食らったように、電光が脳裏を走りました。

子どもはもちろん、親も口にする言葉。「幼稚園が楽しい。」「幼稚園に行くと、気持ちが和らぐ。」わが子の笑顔に嬉しさが込み上げ、先生たちのチームワークのよさが教育方針への信頼度を高める。安心と信頼に裏打ちされ、日々子どもたちに具現されてくる教えの確かさを目の当たりにして、この上ない心地よさに浸る。正に「精華大好き」という境地に至る。



これは保護者のみなさんの偽らざる心境です。15年間苦情クレームが一つもない幼稚園。子どもも親も先生も、みんなチームの一員で、誰もが精華の大ファン。実は、精華幼稚園はもうとっくにブランド化していたのです。

静岡福祉大学

静岡福祉大学は、静岡県内唯一の福祉専門の4年制大学として、「福祉力を鍛える」という教育理念のもと、社会福祉学部、子ども学部において、地域に貢献できる人材を養成しています。

社会福祉学部では、福祉心理学科、健康福祉学科の2学科において、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、公認心理師などの資格を目指すことができ、子ども学部では、子ども学部の1学科において、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭の取得が可能です。

2019年度より約20人のクラスに2人の担任教員を配置し、きめ細やかな指導体制を構築するなど、一人ひとりの学生に寄り添ったサポートに力を入れています。

就職支援も充実し、就職率は10年連続で90%以上となっています。

2020年3月には、子ども学部初の卒業生を送り出しました。福祉施設、医療機関、幼稚園、保育所等での活躍はもちろんのこと、一般企業でも福祉の心を持つ人材が重要とされており、本学の卒業生たちは、さまざまな職種でますます活躍しています。



静岡大成中学校・高等学校 “卒業生優遇制度とは”

下記のいずれかに該当する静岡大成中学校・高等学校の新入生は、入学金20万円を10万円(半額)とします。

- a. 父か母が本校※の卒業生である。
b. 兄か姉が本校※の卒業生である。

※静岡大成中学校 平成28年度より、静岡大成高等学校 令和3年度より実施

※本校とは「静岡精華、静岡大成中学校」だけでなく「静岡精華、静岡大成高等学校」も含まれます。



川崎ブレイブサンダース
増田啓介選手



こんにちは! 静岡大成中学校 7 期生の増田啓介です。今はプロバスケットボールリーグ B.LEAGUE に所属する川崎ブレイブサンダースでプロバスケットボール選手として活動しております。正直優秀な卒業生だらけなのでこの『同窓生の言葉』の依頼を受けた時に僕でいいのかと迷いました。しかしこのような素敵な機会をいただいたことに感謝して、僕なりのことばを送りたいと思います。

みなさんは中学校の思い出と言われると何を思い浮かべますか?僕は朝練からスターライトクラスが終わるまでの1日がとても長く感じ、毎日を乗り越えるのが精一杯だったと記憶しています。あとは英語の小テストがきつかったことですね…。ただ忙しい日の中にも楽しさや充実感はあって良い学校生活を送ることができていたと思います。

現在はコロナ禍の影響で思うように帰省ができなかったり、行動に制限がかかり、もどかしい気持ちになったりもします。そんな中で中学校の繋がりを使って連絡を取り合ったりしてみてもうでしょうか?この同窓会便りがその一助となれば幸いです。

長くなりましたが以上を『同窓生の言葉』とさせていただきます。ご愛読ありがとうございました。



写真提供
川崎ブレイブサンダース